

栗田学区らしい街並みや路地

地域のつながりを大切にしながら

意識を高め、みんなで取り組む防災まちづくり

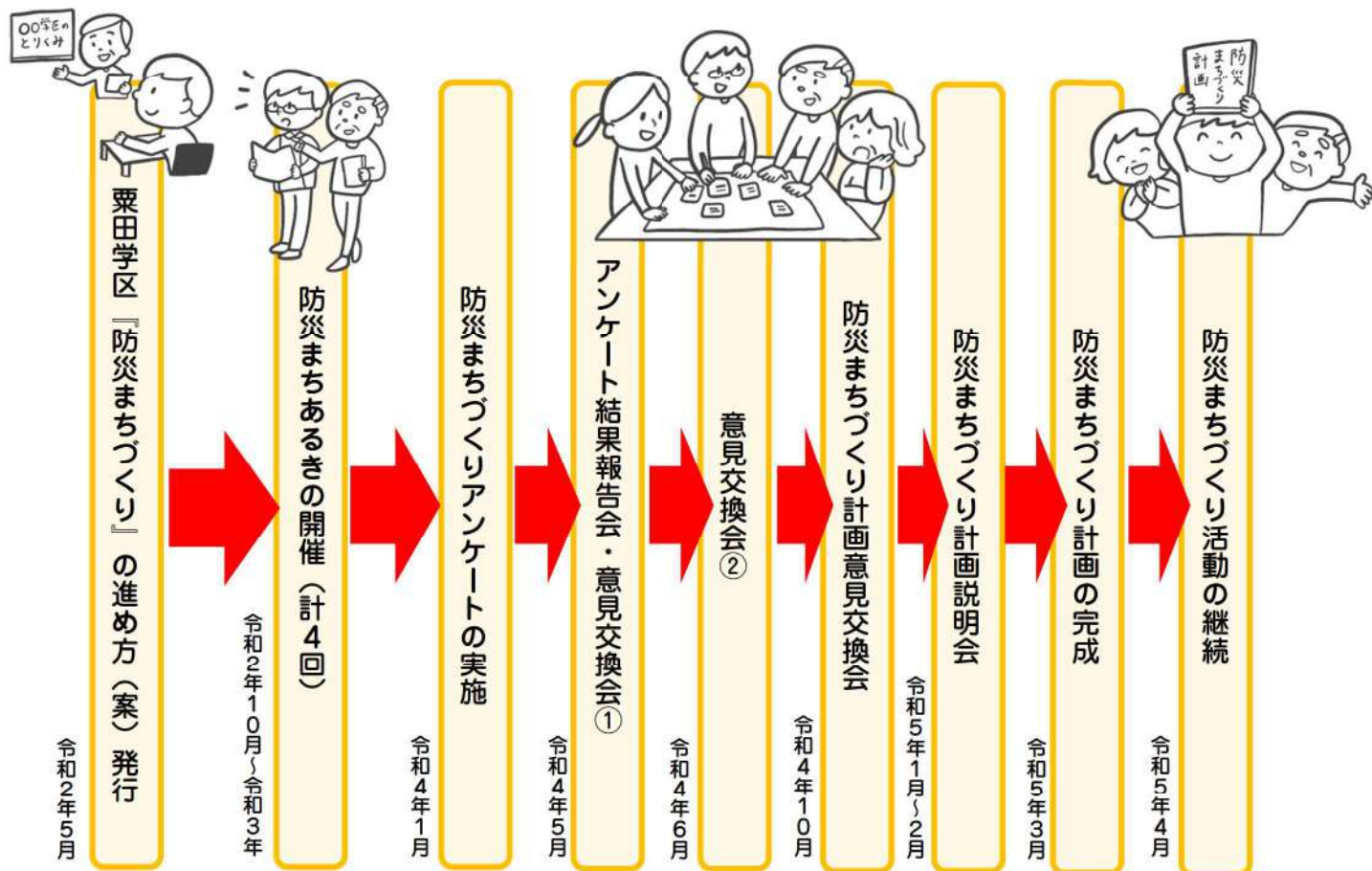
栗田学区防災まちづくり計画

令和五年 三月 栗田自治連合会



1. 「防災まちづくり」「防災まちづくり計画」とは
2. 栗田学区の現況と課題
3. 防災まちづくりの目標、方針、計画
4. 計画の実現に向けた進め方

取り組みの経過

[illegible]

栗田学区

防災まちづくりニュース

第1号
発行日
平成27年10月15日

発行：栗田学区自治会、栗田学区自治会連、白川まちづくり委員会
発行所：栗田学区自治会連事務所（栗田町 新田町） 編集：栗田学区自治会連 印刷：白川まちづくり委員会

栗田学区の防災まちづくりがスタートしました。栗田町自治会連、栗田町自治会、白川まちづくり委員会と連携して、防災まちづくりを進めようとしています。このニュースは、栗田学区の防災まちづくりの取組や、栗田町自治会連、栗田町自治会、白川まちづくり委員会の活動について、お知らせいたします。また、栗田学区の防災まちづくりの取組について、お知らせいたします。

防災まちづくりの取組

1. 防災まちづくりの取組
2. 防災まちづくりの取組
3. 防災まちづくりの取組
4. 防災まちづくりの取組
5. 防災まちづくりの取組
6. 防災まちづくりの取組
7. 防災まちづくりの取組
8. 防災まちづくりの取組
9. 防災まちづくりの取組
10. 防災まちづくりの取組



スグジュール（予定）

毎月第1回 防災まちづくり委員会
毎月第2回 防災まちづくり委員会
毎月第3回 防災まちづくり委員会
毎月第4回 防災まちづくり委員会
毎月第5回 防災まちづくり委員会
毎月第6回 防災まちづくり委員会
毎月第7回 防災まちづくり委員会
毎月第8回 防災まちづくり委員会
毎月第9回 防災まちづくり委員会
毎月第10回 防災まちづくり委員会

取組例（白川まちづくり委員会より）

防災まちづくりの取組は、白川まちづくり委員会が中心となって進めています。白川まちづくり委員会は、防災まちづくりの取組を進めるために、白川まちづくり委員会連、白川まちづくり委員会、白川まちづくり委員会と連携して、防災まちづくりを進めようとしています。



スグジュール（予定）

毎月第1回 防災まちづくり委員会
毎月第2回 防災まちづくり委員会
毎月第3回 防災まちづくり委員会
毎月第4回 防災まちづくり委員会
毎月第5回 防災まちづくり委員会
毎月第6回 防災まちづくり委員会
毎月第7回 防災まちづくり委員会
毎月第8回 防災まちづくり委員会
毎月第9回 防災まちづくり委員会
毎月第10回 防災まちづくり委員会

[illegible][illegible]

粟田学区

防災まちづくりニュース

第4号
7月発行

1 目的の達成をより一層アワードへの期待がけがなされています。504 事業の方向に留意して、我々のまちをより安全に保ち、住民の暮らしを豊かにすることを目指してまいります。

→ 一歩を踏み出したとしても、何年か経たないと達成することができません。現状が基礎として必要とされる防災まちづくりの取り組みが、市民の暮らしに反映され、防災まちづくりが実現されるよう取り組む必要が感じられます。

→ 防災まちづくりの取り組みが、市民の暮らしに反映され、防災まちづくりが実現されるよう取り組む必要が感じられます。

防災まちづくりアンケート結果概要

Q1 防災意識の高まりを感じている人は半分以上

回答	割合
感じる	54%
感じない	46%

Q2 防災意識の高まりを感じている人は半分以上

回答	割合
感じる	54%
感じない	46%

Q3 防災意識の高まりを感じている人は半分以上

回答	割合
感じる	54%
感じない	46%

Q4 防災意識の高まりを感じている人は半分以上

回答	割合
感じる	54%
感じない	46%

Q5 防災意識の高まりを感じている人は半分以上

回答	割合
感じる	54%
感じない	46%

粟田学区

防災まちづくりニュース

第5号
7月編

発行：粟田区社会福祉会 粟田学区自治会 粟田学区の各施設
 発行所：〒519-0201 福井県福井市栗田町1-1-1 福井県立福井高等学校 1号館3階



**防災まちづくり計画策定に向けた
アンケート結果報告会・意見交換会を開催しました！**

7月8日（明日）は4月16日、第5回防災まちづくり推進委員会が開催されました。出席は、栗田学区の各施設と「防災まちづくり推進委員会」の各委員の代表者から合計4名、4名が出席しました。900人以上の参加があった「防災まちづくりアンケート」の結果、調査した内容の概要と「防災まちづくり計画」の進捗、またその進捗状況について説明を行いました。

7月8日の報告会、いよいよ防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。今回は、防災まちづくりアンケートの結果を基に、アンケートの1項目「防災まちづくり推進委員会」の進捗状況について、栗田学区の各施設と意見交換を行いました。アンケートの結果を基に、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。アンケートの結果を基に、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。

5月11日
(木)午後3時30分～

第1回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会

15名が出席しました。アンケートの結果を基に、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。

5月11日
(木)午後3時30分～

第1回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会

15名が出席しました。アンケートの結果を基に、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。



第1回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会



第2回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会



第3回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会

6月19日
(土)午後3時30分～

第2回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会

15名が出席しました。アンケートの結果を基に、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。

6月19日
(土)午後3時30分～

第2回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会

15名が出席しました。アンケートの結果を基に、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。



第2回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会



第3回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会



第4回防災まちづくりアンケート結果報告会・意見交換会

参加者アンケートからのおまなこ意見・ご感想

希望

- ・防災まちづくり推進委員会が、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。
- ・防災まちづくり推進委員会が、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。
- ・防災まちづくり推進委員会が、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。

意見・要望

- ・防災まちづくり推進委員会が、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。
- ・防災まちづくり推進委員会が、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。
- ・防災まちづくり推進委員会が、防災まちづくり計画の進捗が明らかになりました。

1. 「防災まちづくり」「防災まちづくり計画」とは

「防災まちづくり」とは、地震等の災害から命や財産を守るために、「災害が起こる前に対策を進める取組」です。栗田学区では、令和2年度から取組を開始しました。

そして、この度、今後の「防災まちづくり」に対する「学区の方針」をまとめた「防災まちづくり計画」を策定しました。

取組.1 防災まちあるき

町内会長を中心に、地域の皆さんと一緒に、実際にまちを歩き、狭い道や路地、老朽化した建物、ブロック塀等の「防災上の課題等を確認」しました。



取組.2 ワークショップ

まちあるきの後に参加者で集まり、確認した課題についての対策を検討しました。当日の意見や対策を地図に書込んで、「参加者全員で共有」しました。



取組.3 防災まちづくりアンケート

学区全世帯を対象としたアンケートでは、多数のご回答をいただき、災害時の課題、取組のアイデア等、計画に反映させるべき「ご意見を集約」することができました。

取組.4 意見交換会

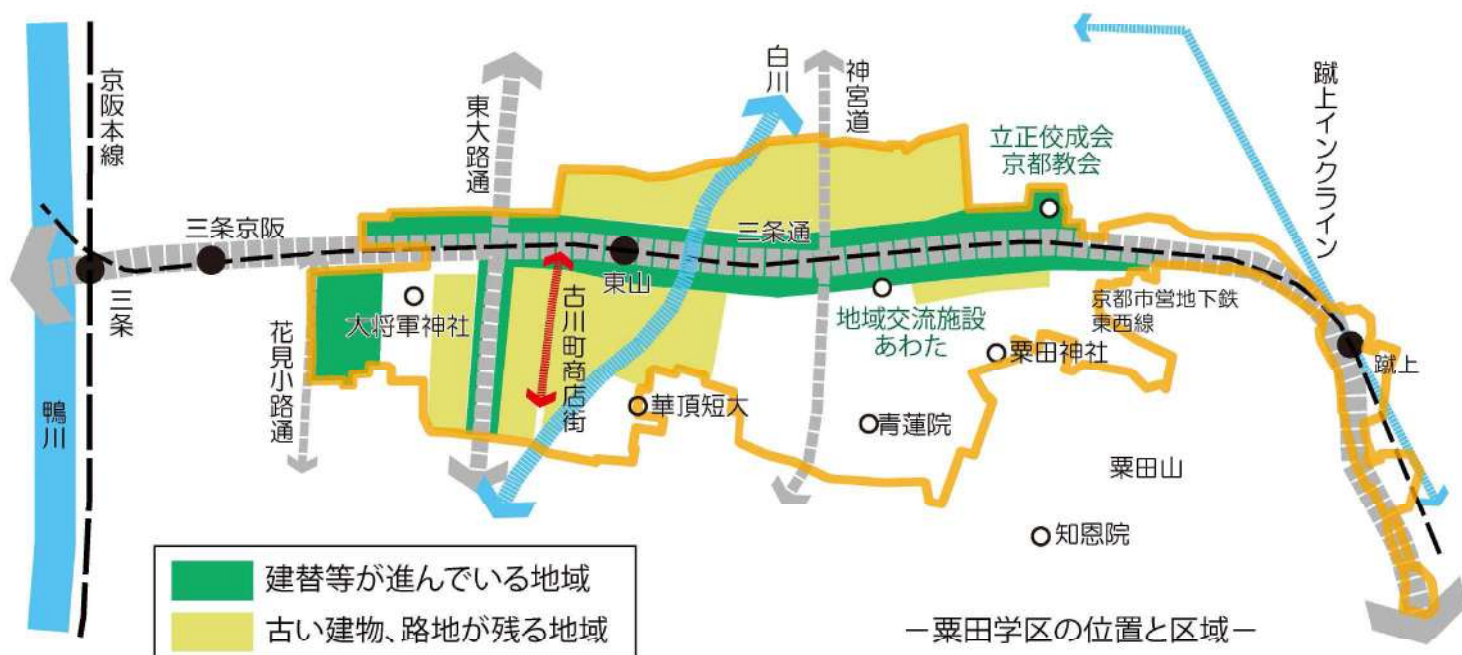
これまでの取組結果をまとめ、「防災まちづくり計画(案)」を作成し、地域の皆さんのご意見を伺いました。様々なご意見、ご提案をいただき、「学区の方針を決定」することができました。



2. 栗田学区の現況と課題

(1) 現況

栗田学区は、「元々は密集市街地」に指定されていました。主に、東大路通、三条通の沿道の建替え等が進み、令和3年度に解消されましたが、その他の地域では、4m未満の道に古い木造住宅が立ち並ぶとともに、「路地や袋路(※)」が多く残ります(学区全体で77本)。大通りから一步入ると、袋路等が集中する地域(の地域)が広く見られます。



こうした地域では、「地震等の災害時に、建物の倒壊、火災の延焼拡大等の被害が大きくなる」ことが懸念されています。



※「路地や袋路(※)」

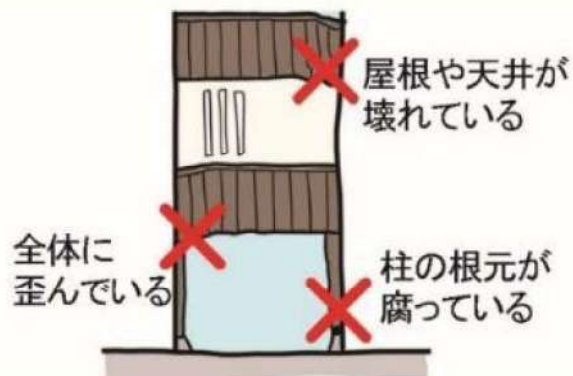
「路地」とは、幅員1.8m未満の細い道。「袋路」とは、幅員4m未満の行き止まりの道。

(2) 主な課題

課題.1 建物の倒壊

古い木造住宅(特に昭和56年以前)は、十分な耐震性がなく、地震時に倒壊の危険性があります。また、学区内には多くのトンネル路地があります。また、学区内には多くのトンネル路地がありますが、構造上の弱点になり、倒壊の要因になる場合があります。

逃げ道を防ぐ恐れのある
路地入り口トンネル部分の老朽化



課題.2 火災による延焼

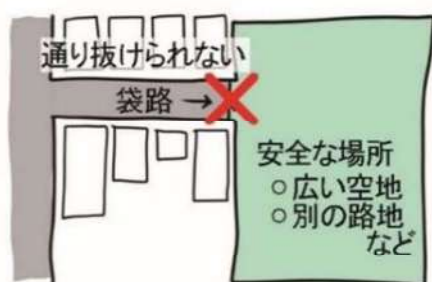
火災が起きた時、広い道や空地があれば、延焼が止まりますが、狭い道では隣家に燃え移ってしまい、被害の拡大に繋がります。



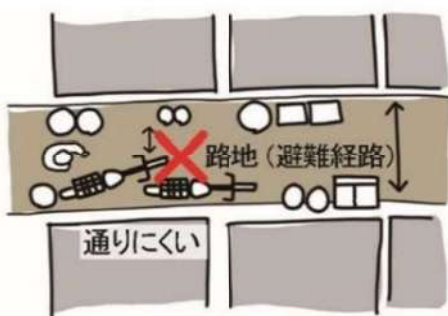
課題.3 避難経路の閉塞

路地や袋路は、建物の倒壊、火災に加え、ブロック塀や植木等が倒れることで、避難が困難になります。一方向にしか逃げることができない袋路では、経路が塞がれて、避難ができなくなる可能性があります。

2方向避難が困難な袋路



避難の妨げとなる路地の私物



倒壊の危険のあるブロック塀



学区の現況（令和5年1月時点）

【凡例】



避難所



指定緊急避難場所（土砂）



① 地域の集合場所



路地



トンネル路地



門扉付トンネル路地



袋路（突き当たりが行き止まり）



袋路（突き当たりが避難扉）



表札門

市の補助制度を活用した事例等

所有者等が自主的に安全性向上に努められている事例等



老朽化したトンネル部分の耐震補強、防火改修等を市の補助金を活用し実施。安全性が高まりました。

No.	町名	地域の集合場所
⑮	梅宮町南部	一本橋東詰め
⑯	今小路町	日出幸ガラス前
⑰	東姉小路町	井ノ本ガレージ前
⑱	分木町	栗田老人デイサービスセンター付近
㉒	西海子町	東山三条交差北東付近
㉓	七軒町	要法寺の石碑付近
㉔-1	南西海子町	中信東山支店南側(西側)
㉔-2	南西海子町	ドミール安田前(東側)
㉕	南木之元町	知恩院前郵便局
㉖	古川町	デリード前お地藏さん付近
㉗	北木之元町	知恩院前郵便局
㉘	唐戸鼻町	白川唐戸鼻橋付近
㉙	高畑町	東山祇園駐車場
㊦	進之町	若松通東大路西入る10m北側ガレージ
㊧	稲荷町北組	白川の行者橋付近
㊨	稲荷町南組	白川の行者橋付近
㊩	上教業町	三条東公園
㊪	下教業町	三条東公園
㊫	長光町	三条東公園



0m

50m

避難扉が設置されていて、二方向避難が可能。

マンション建設時に、
路地からマンション側に
抜ける避難経路が確保さ
れました。

台風で被害を受けた屋根。補助金を活用し修繕しました。



隣接する建物の建設時に幅員が広がり、安全性が高まりました。

東姉小路町

大井手町

西海子町

分木町

住宅の改修にあわせて路地のトンネル部分を補強。安全性が高まりました。

七軒町

京都中央信用金庫

26-1

南西海子町

26-2

今小路町

土居之内町

北木之元町

27 29

南木之元町

南木之元町

進之町

進之町

トンネル部分の補強や金属製の塀で安全性が高まっています。

八軒町

28

古川町

唐戸鼻町

堤町

梅宮町南部

高畑町

稲荷町北組

稲荷町南組

耐震、防火改修工事が完了し、安全性が向上したトンネル路地。夜間は自転車を路地奥に駐輪する等避難経路も確保されています。

老朽化したトンネル部分を除却することで、避難時の安全性が高まりました。



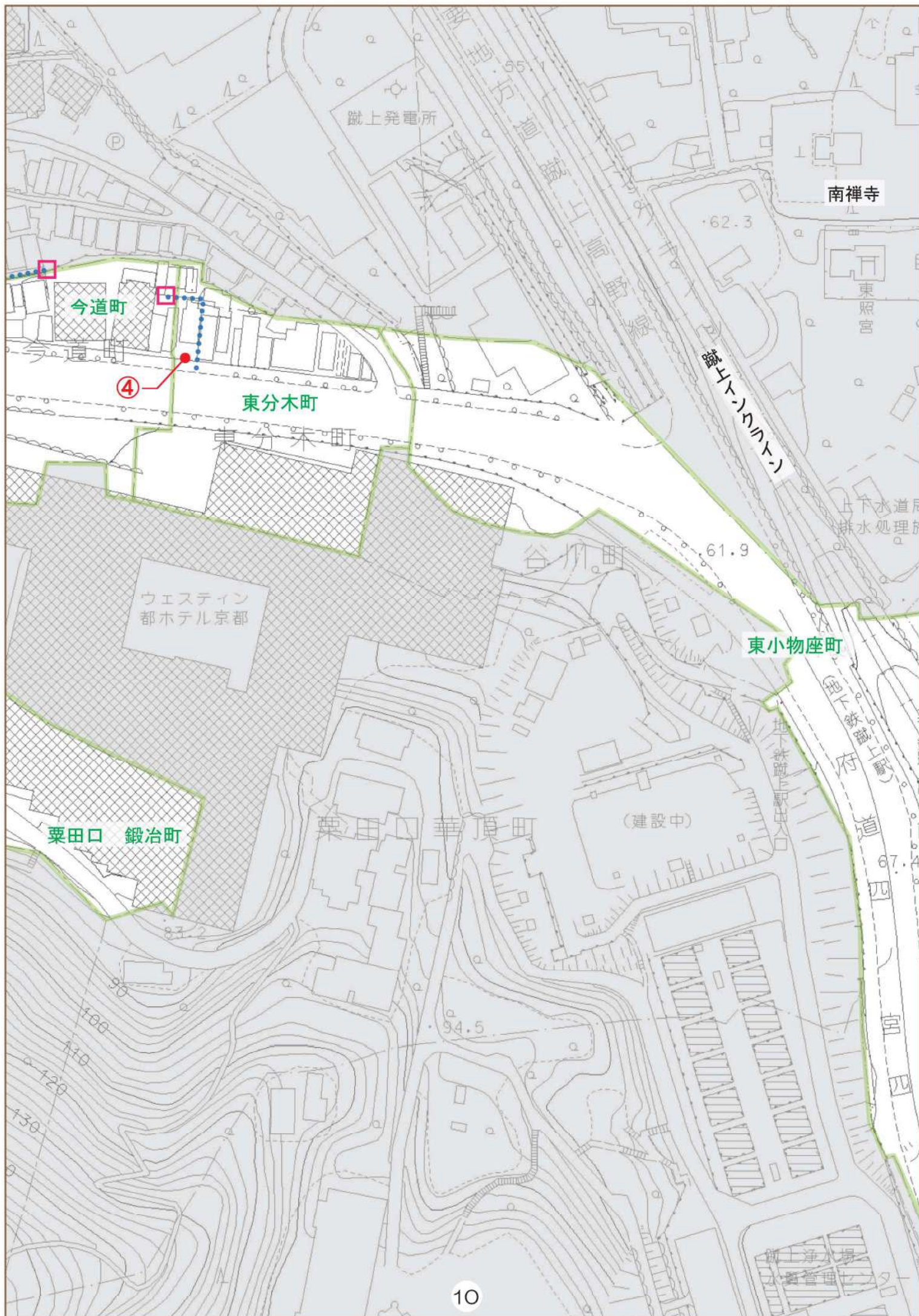


大雨の際、水が滝のように流れ、課題となっていましたが、雨水枡の増設により改善されました。



No.	町名	地域の集合場所
②	東町	立正佼成会前
③	栗田口鍛冶町	佛光寺参道
⑤-1	中之町	合槌稻荷前(三條通以北)
⑤-2	中之町	グローバル岡崎前(三條通以南)
⑥	夷町	春秋ビル東隣
⑦	堀池町	山本駐車場
⑧	西町	三條通神宮道北西角
⑨	柚之木・定法寺町	阿含宗駐車場
⑩	五軒町	(旧) 三條通東山ユースホテル前
⑪	栗田口 三條坊町西部	栗田坊町児童公園







【凡例】



避難所



指定緊急避難場所（土砂）



① 地域の集合場所



路地



トンネル路地



門扉付トンネル路地



袋路（突き当たりが行き止まり）



袋路（突き当たりが避難扉）



表札門



市の補助制度を活用した事例等



所有者等が自主的に安全性向上に努められている事例等

No.	町名	地域の集合場所
①	東小物座町	疏水西側広場
④	今道・東分木町	尾崎たばこ店前



0m

50m

3. 防災まちづくりの目標、方針、計画

安全で安心できるまちづくりに向けては、建物のこと、避難のこと、ご近所づきあいのこと等、さまざまな課題を解消する必要があります。栗田学区では、めざすべき「目標」のもと、大切にしたい「5 つの方針」、そして、具体的に取り組んでいく「9 つの計画」を定め、防災まちづくり計画としました。

目標

栗田学区らしい街並みや路地、地域のつながりを大切にしながら意識を高め、みんなで取り組む防災まちづくり

5つの方針と9つの計画

方針
1 隣近所、住民どうし
コミュニケーション
が弾む「普段から顔の
見える関係づくり」

計画
1 防災、防犯について、定期的に話し合う機会をつくるとともに、ふだんから気軽なコミュニケーションが弾むように、縁側のような場所を育みます。

計画
2 学区全体で意識を高め、訓練やイベント等を通じて各町内で要配慮者への支援について話し合います。

方針
2 倒れない、
出火しない
「家づくり」

計画
3 訓練やイベント等を通じて住宅の耐震防火性能の重要性を広め、倒れない、出火しない家づくりを促します。

計画
4 住宅や路地、街並み等日常の暮らしを豊かにすることが防災にもつながることを伝え、楽しく取り組む防災活動を広めます。

方針
3 逃げられる
「道づくり」

計画
5 避難ルート、集合場所について、みんなが知り、活用するように見直し、マイ・タイムラインも活用することで、命を優先した避難対策に取り組みます。

計画
6 マンション等の共同住宅単位での避難について、学区として取り組みます。

方針
4 居心地よく、
もしものときも
安全な
「路地づくり」

計画
7 学区に多く残る昔ながらの路地を大切にする意識を高めるとともに、安全対策に取り組みます。

計画
8 路地への愛着を高めるために、路地の愛称づくりに取り組み、地域全体で管理ルールをゆるやかに定めます。

方針
5 「空き家・空き地」
の管理、活用

計画
9 空き家の所有者を把握し、耐震性を確保した上で、多様な活用を進めます。

方針1 隣近所、住民どうしコミュニケーションが弾む「普段から顔の見える関係づくり」

計画1 防災、防犯について、定期的に話し合う機会をつくるとともに、ふだんから気軽なコミュニケーションが弾むように、縁側のような場所を育みます。

たとえば…

- 各種団体の総会・会合等での話し合いの機会づくり
- 地蔵盆や祭り等の機会を利用したコミュニケーションが弾む場や若い世代が集う場づくり
- 古川趣蔵、健やか学級



計画2 学区全体で意識を高め、訓練やイベント等を通じて各町内で要配慮者への支援について話し合います。

たとえば…

- マイ・タイムラインの作成(協力しあいながら、みんなで作成)、災害時に協力してもらえる人材を発掘、要配慮者と普段からコミュニケーションをとる等
- 常日頃からの住民どうしの情報共有のあり方の検討



マイ・タイムラインって
何ですか!?

災害に備えて自分自身がとるべき行動をあらかじめ決めたものが「マイ・タイムライン」です。

家族や地域で相談しながら、それぞれの「マイ・タイムライン」を作ってみましょう。

また、作成を通じて必要な準備も進めておきましょう。



方針2 倒れない、出火しない「家づくり」

計画3 訓練やイベント等を通じて住宅の耐震防火性能の重要性を広め、倒れない、出火しない家づくりを促します。

たとえば…

- 消火器訓練の開催、木造住宅及び京町家の耐震診断士派遣事業(派遣には条件があります)・京安心すまいセンターの耐震セミナー等の活用、すまいの耐震ローラー作戦の開催等



- ※ 耐震診断とは、「大地震」ですまいが倒壊する可能性を判断すること
- ※ 木造住宅の耐震化のご相談は〈京安心すまいセンター〉まで
問合せ：075-744-1631(水曜日、祝日、第3火曜日及び年末年始(12/29～1/4)を除く 9:30～17:00)

計画4 住宅や路地、街並み等日常の暮らしを豊かにすることが防災にもつながることを伝え、楽しく取り組む防災活動を広めます。

たとえば…

- 学区内外の事例の紹介

方針3 逃げられる「道づくり」

計画5 避難ルート、集合場所について、みんなが知り、活用するように見直し、マイ・タイムラインも活用することで、命を優先した避難対策に取り組みます。

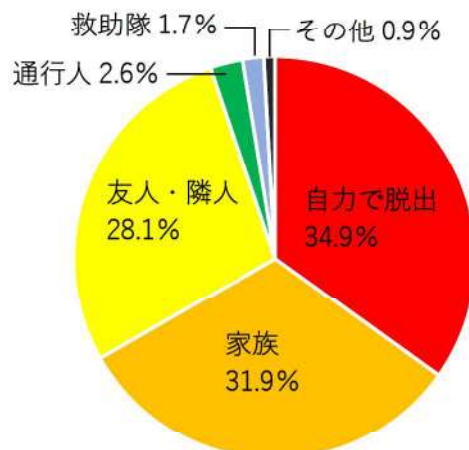
たとえば…

- 毎年、各町内で集合場所の伝達と地域の集合場所への看板の設置等
- 既存の避難扉の有効活用の検討
- マイ・タイムラインを活用した訓練実施等

計画6 マンション等の共同住宅単位での避難について、学区として取り組みます。

たとえば…

- マンション実態調査(世帯種別、年代等)の実施等



阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等
標本調査:(社)日本火災学会(1996)
「1995 年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

方針4 居心地よく、もしものときも安全な「路地づくり」

計画7 学区に多く残る昔ながらの路地を大切にする意識を高めるとともに、安全対策に取り組みます。

たとえば…

- 市の補助金の周知啓発
(二方向避難の確保、トンネル路地での安全確保、ブロック塀の安全対策)



トンネル部分を補強した例(栗田学区内)



ブロック塀を改善した例(※)



路地に設置された避難扉例(※)

※ 路地保全・再生デザインガイドブック(京都市)より

計画8 路地への愛着を高めるために、路地の愛称づくりに取り組み、地域全体で管理ルールをゆるやかに定めます。

たとえば…

- 路地ごとに名称を付け(ネーミング・ワークショップを実施)、銘板を作成し掲示
- 路地名称を消防等と共有し、通報時に簡単に場所を伝えられるようにする等
- 災害時に避難の妨げになるような私物の置き方のルール化

方針5 「空き家・空き地」の管理、活用

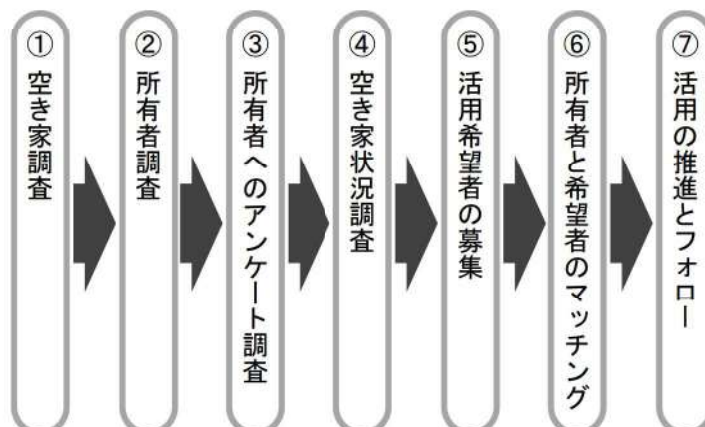
計画9 空き家の所有者を把握し、耐震性を確保した上で、多様な活用を進めます。

たとえば…

- 自治連合会空き家対策実行委員会と連携した取り組み



- 管理されていない空き家 -



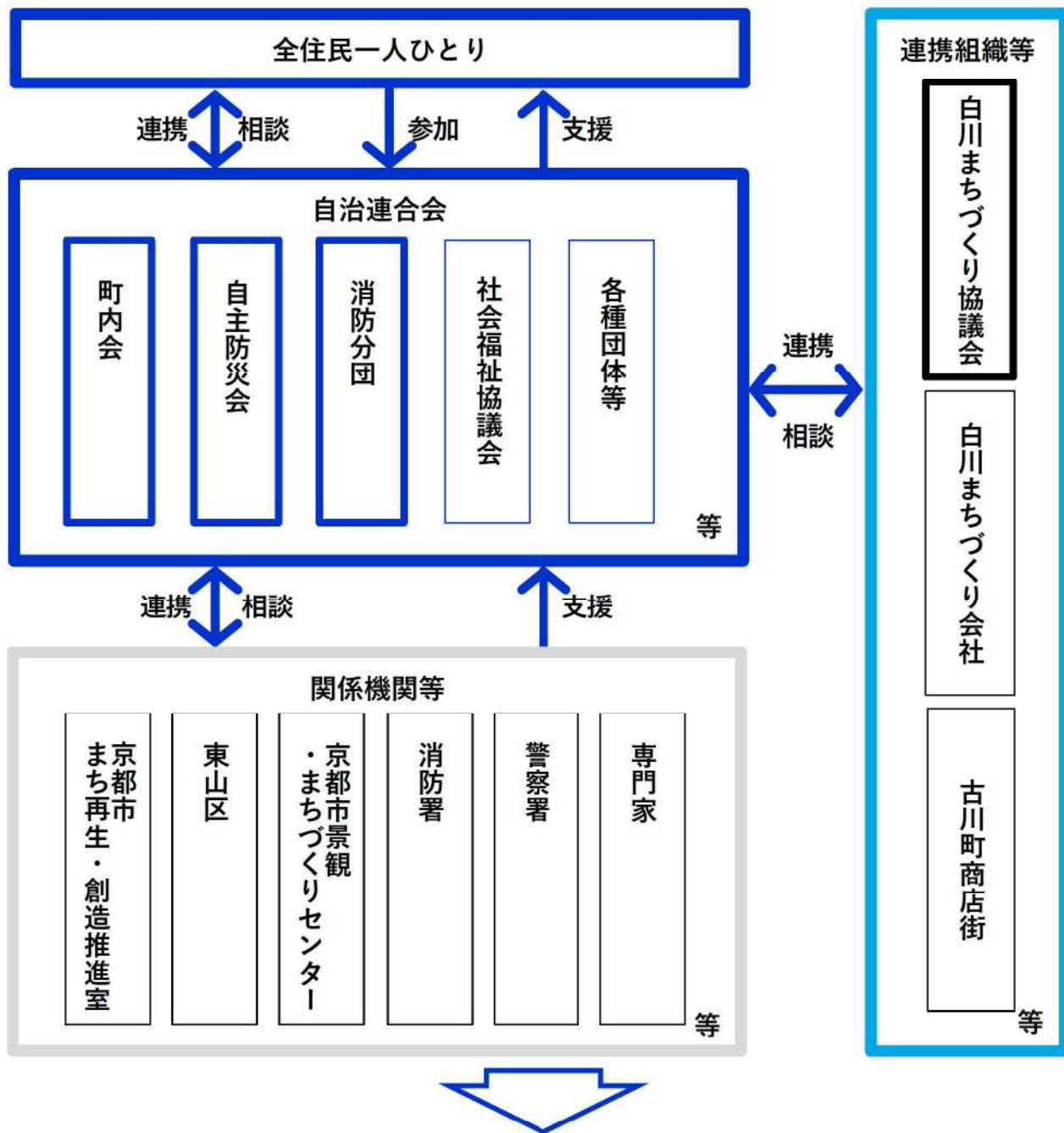
- 栗田自治連合会・空き家対策実行委員会による取組手順と活用例 -

※ 写真は、上は栗田学区内、下は下京区朝妻町

4. 計画実現に向けた進め方

計画の実現に向けては、住民の一人ひとりが、「関係づくりを大切に」「ソフト面から」「できることから」「新しい人に関心を持ってもらえるように」「計画の内容を伝える機会を増やす」等の意識を持ちながら進めます。

また、5 つの方針、9 つの計画を進めるには、既存の体制を強化し、それぞれの団体の強みや関心を活かした役割分担と連携のもと進める必要があります。団体相互のつながりを強め、計画ごとに体制を整えながら取り組んでいきます。



つながり豊かで安全で安心できる栗田学区へ

発行 / 栗田自治連合会（事務局 白川まちづくり協議会）

協力 / 京都市都市計画局まち再生・創造推進室（密集市街地・細街路対策担当）

（公財）京都市景観・まちづくりセンター（地域まちづくり担当） 東山区役所地域力推進室（防災担当）

専門家（栗田学区防災まちづくり派遣） 街角企画株式会社 山本一馬